

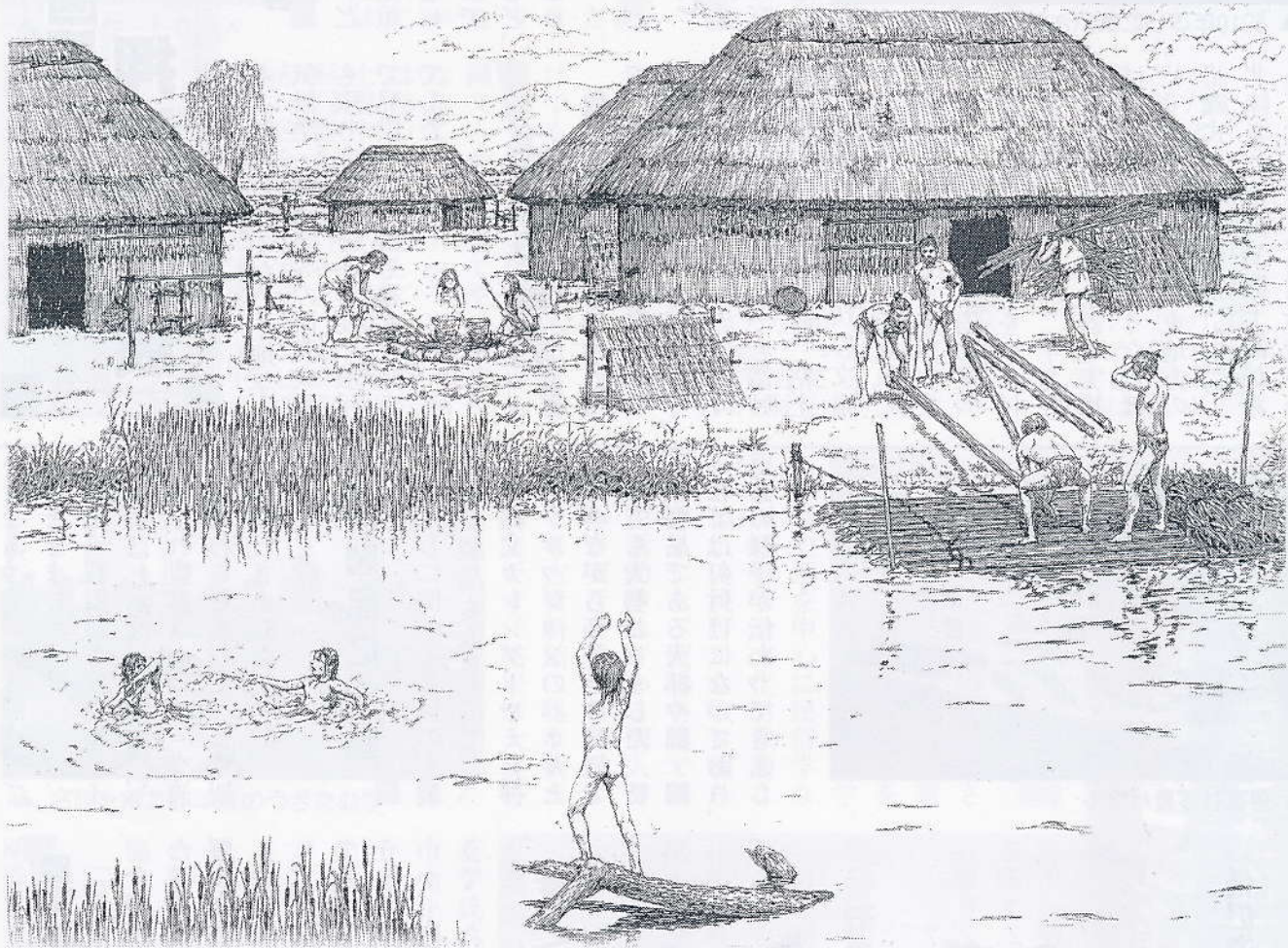
うきたむ

第30号

2008.1.15

山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館館報

山形県東置賜郡高島町大字安久津 2117 TEL 0238-52-2585
FAX 0238-52-4665



▲ ある日の押出ムラ

押出遺跡をやまがたの財産に

山形県教育庁教育やまがた振興課

文化財保護室長 佐藤 庄一

いまから二三年前の昭和六〇年は、山形県の考古学会にとって記念すべき年でした。この年に高島町の押出遺跡と天童市の西沼田遺跡の発掘調査が同時に行われたからです。私達は、古代建築学者である宮本長二郎氏によって、二つの遺跡が縄文時代と古墳時代という四千年もの時代差があるにもかかわらず、共に壁立式住居という家屋をもつ特殊な集落であることを知りました。

押出遺跡は縄文時代前期（今から五、七〇〇年前）のムラが大谷地によってそのまま保存されたタイム・カプセルのような遺跡です。大小様々な家や彩漆土器や木胎漆器に代表される遺物が、当時の生活を鮮やかに物語ってくれます。縄文のムラを豊富な資料から具体的に復元できるという点ではわが国を代表するもので、三内丸山遺跡や登呂遺跡のように中学校や高校の歴史の教科書に載ってよい重要な遺跡です。

押出遺跡については、報告書が発行になり、木製品などの保存処理が終わった段階で、本格的な研究はこれからです。今後は、押出遺跡をやまがたの財産として、もっと研究や活用を図ることが必要です。福井県三方町では押出遺跡とよく似た鳥浜貝塚について、多額のお金をかけて町立の「若狭三方縄文博物館」を建設し、縄文文化の発信や丸木舟作りなどの体験学習を行っています。私達も是非見習いたいものです。

第15回 企画展 縄文の至宝 押出遺跡展

好評を博した展示内容

「押出遺跡の生業とくらし」にスポットをあて、国指定重要文化財一〇〇点を中心に展示しましたが、最終日まで数多くの見学者が訪れるなど、大変好評を博した展示になりました。

考古資料だけでなく、地学・気候学・動物学等の研究成果も取り入れ、分かり易い展示で見学者の理解も進んだようでした。

土器の魅力

数ある押出遺跡の魅力の中で、多くの見学者を魅了したのは土器でした。先ず数多くの完形品が勢揃いした大木4式土器で、同じ深鉢でも微妙に変化した多様な器形、粘土紐を貼り付けた波状の文様や波状の沈線文で区画された文様帯に展開する多様な文様は、一個一個の土器によって異なり見学者の目を引き付けました。また、一二年ぶりに展示された彩漆土器の実物は見学者の視線で熱くなるほどでした。さらに関東地方の諸磯式土器・浮島式土器や、北陸系の押出V群土器があり、五五〇〇年前の交流が分

かるとあって、興味深く観ていただきました。また、石器類も押出型ポイントをはじめ各器種が揃い、それぞれ豊富な内容で、交流にも関わるとあって、よく観ていただきました。

漆製品に感動

くらしに関わる多数の木製品や石製品も大きな魅力で、押出縄文カレンダーやミス押出のファッションのパネルと見比べながら楽しそうに観ている方も大勢おりました。特に漆製品である大杯や櫛・編み布では釘付けになっており、感動の様子が伝わってきました。

豊富なパネルが生きる

今回の企画展では、展示した考古資料に合わせて写真や解説文のパネルを豊富に掲示しました。一つ一つを小型化し、短くピンポイントの内容で工夫しました。読みやすいうるさすぎないようにしたせいか、内容がよく伝わったようでした。

たくさんの方に観ていただきました！



10月17日

高島町観光協会の皆様

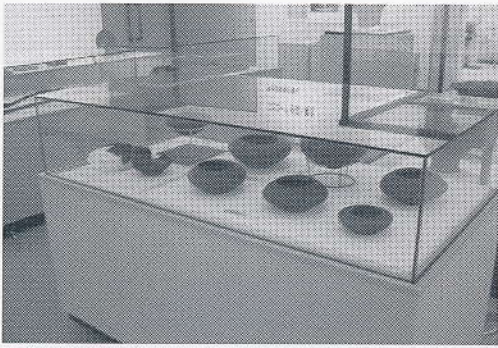


10月28日

山形考古学会の皆様



11月18日 仙台市縄文の森広場の皆様



▲ 約10年ぶりに展示された彩漆土器

総合的な展示で理解進む

遺跡の営まれた大谷地の形から発見・調査・環境など

成から発見・調査・環境など



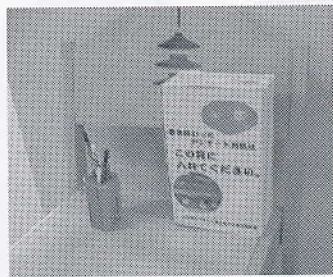
▲ 豊富な写真パネル

他にもたくさんの方の団体や個人の皆様にも

堪能いただきました。



企画展を見ての感想 ~アンケートより~



▲ アンケートBOX

置賜 40代 女性

身近なところ、このようすばらしい物があったのかと感動しました。より多くの皆さんにもぜひ知って欲しい。

東京 40代 男性

押出遺跡の重要性、特別さがわかりました。展示はわかりやすく、見やすく良かったです。なお一層実写風の絵やイラストなどを充実させて下さい。

置賜 60代 女性

今回来て良かった。考古学や歴史のことはよくわからないですが、身近にこんなすばらしいものがあるの発見されている遺跡があるとは

思ってもみませんでした。

仙台 70代 男性

たまたま来てみたのですが、こんなにすばらしい土器や石器などが展示されているとは知りませんでした。今日の感動は一生の記念です。

寒河江 50代 男性

山形新聞の連載を見て来ました。すごい迫力ですね。大木4式土器も良かったです。縄文時代の交易も分かってとても勉強になりました。山形県にこんなすばらしい遺跡があるなんて、誇りに思えます。

東京 60代 男性

本物の彩漆土器を見ただけでも嬉しい。しかも五千年以上も前に私の住む関東から縄文人がここまでやって来たなんてすごいロマンです。私は色の考古学をしています。土器や大杯などの漆製品や異形石器を見てみると、聖なる赤い色を遺跡のカラーとして感じました。これからも色の考古学を続け、論文を書くときは押出遺跡をとりあげたい。他にもたくさんのご意見・ご感想を賜りました。本当にありがとうございました。

今年の冬も「うきたむ」が熱い 第Ⅱ期 うきたむ学講座

好評を得た うきたむ学

昨年度、はじめて開催された「うきたむ学」は、置賜の歴史の新たな解明を目的に、考古学や古代史学、中世史学を中心に民俗学など周辺科学や文化財保護など幅広い視野から取り組んできました。置賜各地で研究や活動をしている個人や団体が実行委員会を組織して、考古資料館に集う新たな講座です。結果は大変好評

評で大勢の参加者を得ました。寒風すさぶ置賜の大地に熱い行事となりました。

今年の講座は

第Ⅱ期となる今年度の「うきたむ学」も昨年度の第Ⅰ期に引き続き、様々な分野の講師をお招きし、かつて「うきたむ」と呼ばれた置賜地域の歴史を解説いたします。



▲ 好評を得た昨年度のうきたむ学

一月二〇日は手塚孝氏「中世置賜の城館址」・角屋由美子氏「米沢の行屋」・長井市文化財保護協会の活動紹介、二月一〇日は、三上喜孝氏「文字で語る置賜古代史」・ゲンジ蛸とカジカ蛙愛護会の活動紹介、三月二日は佐藤鎮雄氏「古墳立地に見る古代人の思想」・川西町文化財保護協会の活動紹介が行われます。「温故知新」の精神で、子歳にふさわしく豊かな実りを期待しているとこです。

冬の考古資料館

「事業案内」

「あんぎん」を作ろう

縄文時代の編み布製作法でコースター程度の布を作りま

期 日…一月一九日(土)
対 象…小学3年生以上
時 間…一〇時～一二時
参加費…二〇〇円(材料代)
申込み…一月一六日(水)まで

二〇〇七年度置賜の発掘 調査検討会

〇七年度に発掘された置賜の遺跡の報告が行われます。

期 日…二月一七日(日)
対 象…一般
時 間…午後一時～五時
参加費…五〇〇円
申込み…二月一〇日(日)まで

うきたむ学講座

期 日…一月二〇日(日)
 二月一〇日(日)
 三月二日(日)
対 象…一般
時 間…午後一時～四時
受講料…各回五〇〇円
申込み…各回の一週間前
(まとめて可)

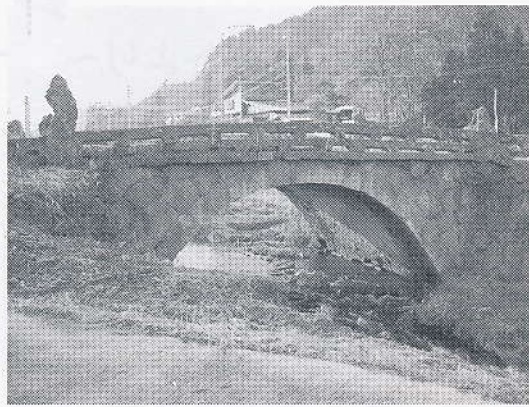
やまがたの近代化を語る

吉田橋

(南陽市指定文化財)

南陽市国道一三号線

沿いの奥羽本線の中川
つ橋があります。これは数少
なくなくなった貴重な近代化遺産
の一つで、明治時代に造られ
た石造アーチ橋です。南陽市
小岩沢の前川に架かっていま
す。前川は小さな川ですが、
結構水量も多く、集中豪雨の
ときは暴れ川になります。そ
れだけに頑丈な石造橋が架橋



▲ 吉田橋

三島県令は、工事の指揮
を執る土木技師として故
郷の鹿兒島から奥野仲蔵
を迎え、南陽市宮内の名

されたのであろう。

明治一三年、山形県初代県
令三島通庸の大規模な道路開
削の一環として造られました。
三島は山国である山形県の発
展の基礎作りとして県外に通
じる大規模な道路を創ろうと
しており、現在の国道一三号
線にあたる山形道には大変力
をいれました。狭い道路を拡
幅し、軟弱な橋は頑丈な橋に
架け替えました。設立された
ばかりの山形県は財政難
でありましたが、沿道の
住民に臨時負担をさせて
もという勢いで強行した
のです。

吉田橋は三島県令在任
中に架橋された六五橋の
一つで、一一の石造アー
チ橋の一つでもあります。
三島県令は、工事の指揮
を執る土木技師として故
郷の鹿兒島から奥野仲蔵
を迎え、南陽市宮内の名

石工吉田善之助を石工として
任じました。吉田は石工とし
て数多くの石造アーチ橋を造
りましたが、米沢城の本丸大
手門の橋と吉田橋だけ水煙の
欄干が許され、吉田橋という
橋名も、吉田善之助を讃えて
賜ったものでした。

吉田橋は、長さ七間(一二
・六m)、幅四間(七・二m)で、
その内両端一間が袖として開
口している。川をせき止め俵
を積み、下方のアーチ石組み
を造り、その上に石を組んで
積みあげたもので構造的にし
っかりしたものです。欄干は
十字組みと斗組みを合わせた
構造で、橋口と袖の欄干の柱
が水煙を擬しています。水煙
は、日本庭園や寺院建築では
最上位を意味し、むやみには
創れないものでした。吉田橋
と米沢城本丸大手の橋しか無
いのはその為です。

ちなみに吉田橋と同様に吉
田善之助が創った、しかも同
じ前川に架かる小岩沢の小巖
橋(長さ五間)の欄干は、扇
板石に飾り穴のついたもので
す。吉田橋も小巖橋も風雪に
耐え、一三〇年の星霜を経て、
今なお現役です。

お花山のガラス玉

お花山古墳から出土したガ
ラス玉は、常設展示室「古
墳を作る人々」の最後に展
示されています。

お花山古墳は、山形市の
北東部、現在は宮城県へ通
じる山形自動車道、山形
北ICから宮城方面へ向い最
初のトンネルに入るあた
りにありました。自動車道
が整備されるに当たり、昭
和五七年から三次にわた
る調査が行われ、その結
果、二五基の古墳(主体部)
が検出されました。

展示されているガラス玉
は、一号墳の主体部から勾
玉・管玉とともに出土し、
その状態から首飾り状の副
葬品として埋葬されたこと
が推測されています。

このガラス玉は、胎内に
細かな気泡を含んでおり、
孔内に条・擦痕がほとんど
認められないため、管状の

ガラスを裁断したものと考
えられています。

古墳時代になると、ガラ
ス玉のほとんどがアルカリ
石灰ガラスで作られるよう
になります。お花山のガラ
ス玉の素材は分析されてい
ませんが、他の地域のもの
と同様にアルカリ石灰ガラ
スで作られた可能性があり
ます。



▶ 常設展示のガラス玉